

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

9月中旬、白馬村南部グラウンドに、ソフトボール大好きなメンバーが参集する。今年、白馬村で初めて長野県ソフトボール協会

にチーム登録した白馬ソフトボールクラブは、新型コロナウイルスの影響で参加予定の大会が全て中止に。毎週水曜日に練習を継続する中、試合をしたいとの声。その要望に中信支部白馬地区会の審判部が全面協力、地域のソフトボール愛好者と呼び掛け練習試合を企画、試合が実現したのだ。だが試合途中に雷鳴と雨で中止に。メンバーからは、「やっぱり試合だよ」「久しぶりに試合の雰囲気を感じる事ができた」と。久しぶりの再会の面々、改めてスポーツの大切さ

を感じ取る。試合途中、シロサギの姿と、追い払うための空砲の響き。地元の人々が東山を指さし「山腹に白色に埋め尽くされた一角が営業地」と教えてくれる。正確には、シロサギという名前のサギは存在

り、許可なく捕獲したり、巣を棒などで落としたりすることが禁じられている。繁殖期が始まる3月ごろから、営業地を作らせない取り組みが、他の地域では積極的に取り組まれていくとの情報もある。農家だけの問題とせ

奪く、衝撃的か、想定内か、先進・新興国38カ国のうち、日本の子どもは「精神的な幸福度」が37位の最低レベル。15歳の子どもの生活満足度が高い割合は、1位のオランダの90%に対し、日本は62%。15〜19歳の自殺率は、最小のギリシャの約5倍。日本の子どもは健康で経済的に恵まれているが、いじめや家庭の不和などに苦しんでいる。日本の子ども

自由度や寛大さも大切だ

介。生きづらさの背景に同調圧力が強い「世間」の存在を指摘。仲間外れを恐れず自由に。そして自分を大切に。そして自分を大切に。そして自分を大切に。そして自分を大切に。

育てようと。自由度や寛大さを考えさせられたコラムだった。(信州地域社会フォーラム 会員・白馬村森上)



試合前のグラウンド整備。スポーツのできる楽しさが伝わってくる